

書調價評策施

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

2 施策の状況

※ 指標の判定基準

定量的評価結果	計算式
2.14 (e 相当)	4 点 × 2 個 = 8 点 1 点 × 1 個 = 1 点
	3 点 × 0 個 = 0 点 0 点 × 1 個 = 0 点
	2 点 × 3 個 = 6 点
	合計 15 点 ÷ 7 個 (判明済み指標) = 2.14

※ 定量的評価の判定基準

1/3

2－2 経過検証指標の状況と分析

	指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	備考
①	【施策の方向性②】 脳血管疾患による人口10万人当たり 年齢調整死亡率(人口10万対)	実績	35.0	34.7	(33.0)	(32.9)	30.2 (速報値)		令和7年9月判明予定
	出典:厚生労働省「人口動態統計」								
分析	- 本県の年齢調整死亡率（人口10万対）は令和5年実績値が32.9と減少傾向にあるが、全国値（令和5年実績値23.5）より高い値で推移している。 「令和6年人口動態統計（概数）」を基に推計した令和6年実績の速報値は30.2であり、前年より2.7ポイント改善した。								

2－3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 健康づくり県民運動の推進】 - 保健医療団体、市町村、企業等で組織する秋田県健康づくり県民運動推進協議会について、マスメディアとの連携による会員の取組の紹介や、優れた実践活動を行う会員を表彰する「健康秋田いきいきアクション大賞」の実施等により、協議会活動の活性化を図った（秋田県健康づくり県民運動推進協議会に新たに21団体が入会し、令和6年度末時点で会員数は327会員）。 - 働き盛り世代の健康づくりを促進するため、秋田県版健康経営優良法人認定制度の県内企業への周知により健康経営の考え方の浸透を図るとともに、197法人を秋田県認定健康経営優良法人として認定した。 【施策の方向性② 生活習慣の改善に向けた意識改革と行動変容の促進】 - 減塩、野菜・果物摂取の意識向上を図るため、「もう一皿野菜をプラス！キャンペーン」を関係団体と連携して実施した（普及啓発資材配布先：スーパー98か所、コンビニエンスストア294か所、企業4か所、その他J A・道の駅、大学・短大、市町村・福祉環境部等）。また、「秋田スタイル健康な食事」の普及を図り、新たに4店舗11メニュー（累計30店舗138メニュー）を認証した。 - 働き盛り世代等における運動習慣の定着を図るため、ウォーキングアプリを活用したチーム対抗型のウォーキングイベントを実施（130チーム、734人が参加）した。 - 若い世代等における喫煙を防止するため、学校及び商工団体と連携した啓発資材の配布や大学・短大・専門学校の学生に対するたばこに関する講義の実施（12校、1,192人参加）などの普及啓発を行った。 【施策の方向性③ 特定健診・がん検診の受診の促進】 - 全県の協力かかりつけ医（198か所）による受診勧奨チラシを活用した受診勧奨を行ったほか、県内の歯科診療所・薬局に啓発資材ポスターを配布した。また、がん対策推進企業等連携協定締結企業32事業所が、県民と直接接する場面等において、啓発資材を活用し受診を呼びかける取組を行った。 - 市町村が実施する胃、大腸、肺、子宮頸、乳がん検診について、罹患率の高まる年代を対象として、検診受診に係る受診者自己負担額の無料化または経費の軽減に対し、助成を行った（延べ11,499人受診）。 - 若い世代におけるがん検診受診の習慣化を図るため、20歳代の女性を対象として、市町村が実施する子宮頸がん検診受診に係る受診者自己負担額の無料化または経費の軽減に対し、助成を行った（1,402人受診）。 【施策の方向性④ 高齢者の健康維持と生きがいづくり】 - 老人クラブにおいて、地域の清掃活動や見守り活動等の地域活動を通じて高齢者が活躍できる場を創出し、高齢者の社会参加を促進した（地域活動を実施した老人クラブ数：延べ1,712クラブ）。 - 高齢者を中心とするスポーツと文化の祭典である全国健康福祉祭（ねんりんピック）に本県から93名の選手が参加した。 - フレイル予防啓発事業として、健康運動指導士と栄養士による、県民を対象とした研修会や出前講座を開催した（35回、延べ629人参加）。また、フレイル予防の指導を行う人材の資質向上のための講習会（9回、延べ112人参加）、オーラルフレイル予防の指導を行う人材の資質向上のための講習会（4回、延べ136人参加）を開催した。									
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
e	成果指標の達成率を基にした定量的評価は2.14で「e相当」であることから、総合評価は「e」とする。
	【定性的評価として考慮した点】

4 県民意識調査の結果

質問文		県民の健康づくりに取り組む意識が高まり、生きがいをもって元気に生活している。				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度						
満足度	肯定的意見	15.7%	12.5%	13.8%		+1.3
	十分 (5点)	1.5%	1.6%	1.9%		+0.3
	おおむね十分 (4点)	14.2%	10.9%	11.9%		+1.0
	ふつう (3点)	52.9%	45.3%	51.7%		+6.4
	否定的意見	20.8%	32.1%	25.2%		△6.9
	やや不十分 (2点)	12.7%	19.9%	16.0%		△3.9
	不十分 (1点)	8.1%	12.2%	9.2%		△3.0
	わからない・無回答	10.6%	10.0%	9.2%		△0.8
	平均点	2.87	2.66	2.79		+0.13

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の 方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 健康に関して関心の薄い層や育児や仕事で健康づくりに取り組む余裕のない働き盛り世代における意識改革や行動変容にまでつながっていない。	○ 「秋田スタイル健康な食事」認証制度や秋田県版健康経営優良法人認定制度の拡大等により、健康づくりに取り組みやすい環境整備を推進するとともに、子どもたちに健康について考えてもらう子ども健康会議を開催するなど、健康づくりに関する学習・体験の機会を充実させることにより、県民のヘルスリテラシーの向上を図る。
②	○ コロナ禍やライフスタイルの変化等により、県民（20歳以上）の1日当たりの歩数が大きく減少している（H28:5,713歩→R4:4,652歩）。	○ アプリを活用した、チーム対抗型のウォーキングイベントを開催するなど、運動機会の提供により、県民の運動習慣の定着を促進する。
③	○ 特定健康診査の実施率が全国平均を下回っているほか、がん検診受診率（胃・大腸・肺・子宮頸・乳）は、大腸を除く部位で減少している。	○ 健（検）診予約システムの未導入市町村に対してシステムの導入を働きかけるなど、健（検）診を受診しやすい環境整備を進めるとともに、かかりつけ医等による受診勧奨などを通じて、健（検）診の受診促進を図る。
④	○ 令和6年度健康づくりに関する調査において、45.2%がオーラルフレイルを知らないと回答するなど、その認知度は高いとは言えない状況にある。また、オーラルフレイル予防の啓発に携わる人材の確保が困難となっている。	○ 出前講座を通じて県民への普及啓発を図るほか、フレイルの兆候ともされる「オーラルフレイル」の予防については、関係団体と連携した上で普及啓発を強化する。さらに、研修会の開催等を通じて、オーラルフレイル予防の指導を担う人材の育成を推進していく。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「e」をもって妥当とする。
